

## 上海手話における音韻論的プロセス

ワン・ジョンナン

(中国・復旦大学)

コミュニケーションにおいてほとんどの分節は順次的な過程の中になければならないので、音韻過程における変異は、非常に微細であるが言語学においては普通に見られる。同化や音位転換のようなある種の音声言語における通時的な変異は、手話言語でも発見されてきた。手話言語における音韻過程を研究することで、手話言語研究と、言語的普遍性に対する貢献をすることができるだろう。本発表では、変異を明らかにするために、音声言語におけるこれまでの研究の枠組に基づいた音声言語と記号言語との比較を行うことにより、音韻過程を探求することを試みる。第一節では、音声言語における一般的な音韻過程、特にそれらの分類が記述される。音節内での変異とサンディーがそれぞれ議論される。その後、発表の主要な部分においては、音韻過程の分析が行われる。そこでは、基礎的な手話言語音韻論の理論の導入と本発表において採用されるモデルから始める。音声言語の研究を基準とした分類に基づいて、手話言語における音韻過程の様々な変異が例示される。最後に、我々は、音声言語における様々な変異のほとんどが手話言語においても関連する形式として見いだされるが、非利き手の脱落や非利き手を広げるといったモダリティーの方向定位のために、いくらかの相違も存在しているに違いないと結論付けた。この発表が用いたコーパスは、ろう者によって使用される自然な上海手話である。